

公開情報 2014年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

【図表】

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

【解説】

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

2014年 年報（2014年1月～12月）では91医療機関からデータの提出があった。総入院患児数20,306人中、751人（3.7%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では1,118人中255人（22.8%）、1000g～1499gの児では1,499人中105人（7.0%）、1500g以上の児では17,689人中391人（2.2%）であり、超低出生体重児（～999g）が最も高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児751人の感染症原因菌は、MRSA 97例（12.9%）、MSSA 73例（9.7%）、CNS 55例（7.3%）とブドウ球菌属が全体の約3割を占めた。次いでカンジダ22例（2.9%）、緑膿菌20例（2.7%）と続いた。またその他の菌種の報告は192例（25.6%）、菌不明は292例（38.9%）であった。

公開情報 2014年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 751 人の感染症分類は、敗血症 222 例（29.6%）と肺炎 162 例（21.6%）が全体の約半数を占め、皮膚炎 68 例（9.1%）、腸炎 39 例（5.2%）、髄膜炎 17 例（2.3%）と続いた。

2014 年のデータが未提出の 3 医療機関は集計対象外とした。下記の基準に該当する医療機関に問い合わせを行った結果、提出されたデータに疑義が生じた 1 医療機関についても集計から除外した。

データの精度管理

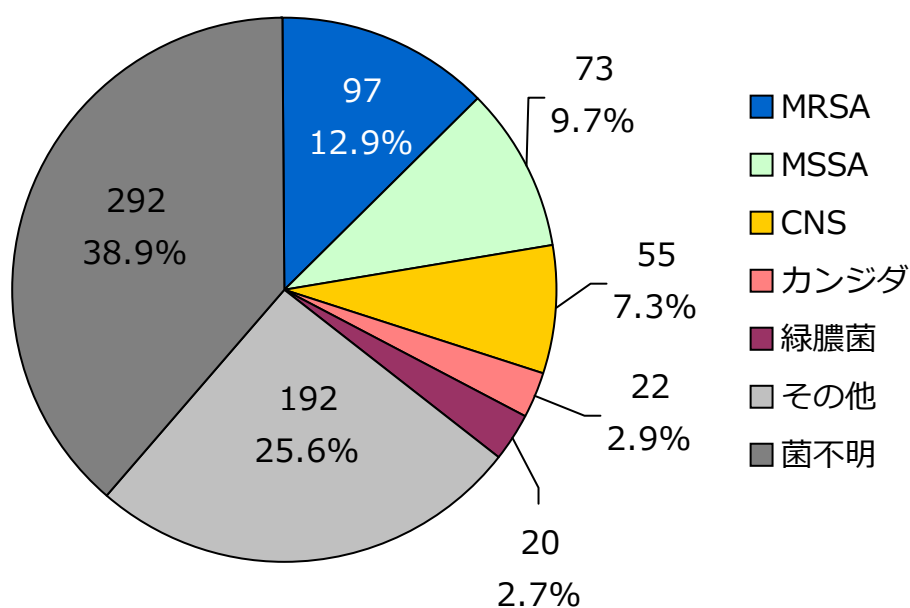
- 各感染症の年間発生率が高く逸脱している（極値）。
- 年間入院患児数の報告がない。

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	1,118	255	22.8%
1,000～1,499g	1,499	105	7.0%
1,500g～	17,689	391	2.2%
合計	20,306	751	3.7%

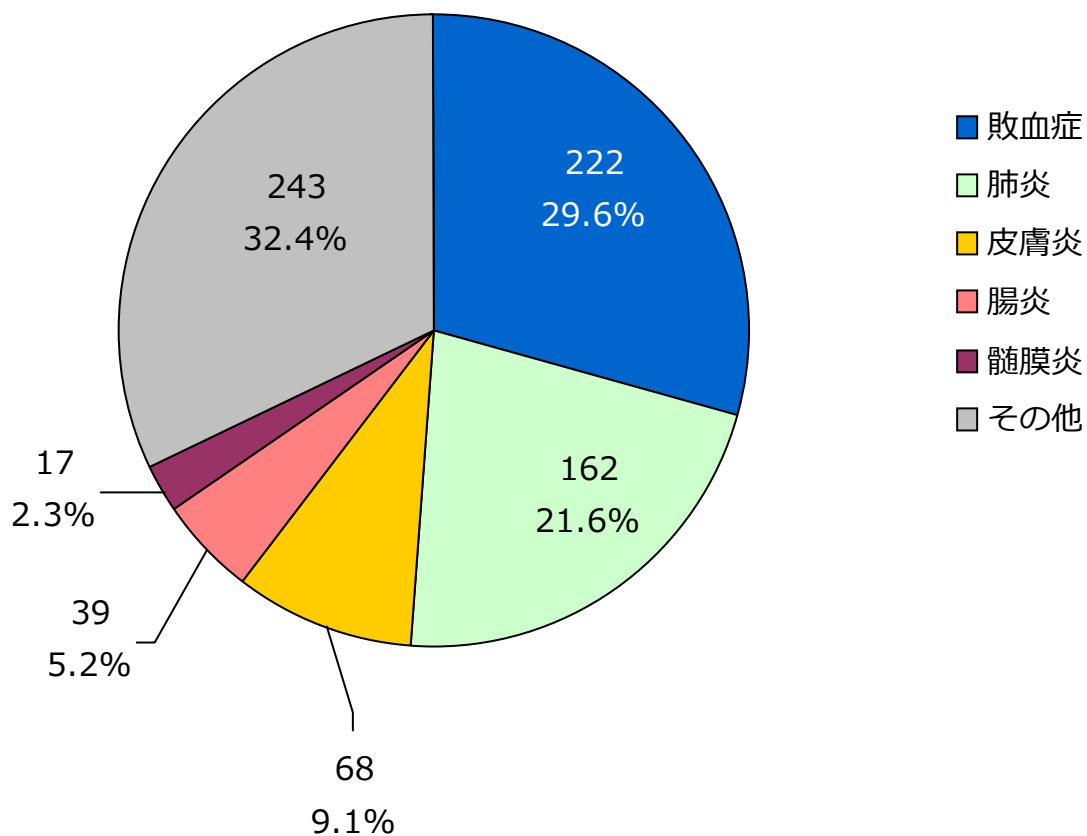
(集計対象医療機関数：91)

2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 751)



(集計対象医療機関数：91)

3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 751)



(集計対象医療機関数：91)